

ICCAE 2012年度第2回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、9月28日（金）、農学部第7講義室において、2012年度第2回オープンセミナーを開催しました。

講演者の加藤 明元農研機構北海道農業研究センター育種工学研究室長は、ガーナ大学西アフリカ作物改良センター（WACCI）において、独立行政法人国際協力機構専



セミナーの様子

門家としてイネの分子育種研究協力を携わった経歴を持っています。WACCIは、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団が、アフリカ緑の革命のための同盟（AGRA）を通じて、南アフリカ共和国とガーナの2カ国に設置した大学院博士課程コースの1つで、西アフリカの作物育種研究者育成をミッションとしています。

ガーナのイネ育種は始まったばかりで、DNAマーカー選抜など新しい育種技術に大きな期待がかけられています。セミナーで加藤元室長は、ガーナで行ったイネの耐乾性マーカー選抜研究の経験から、ポット試験の維持管理・生育調査などについて日本人研究者によるきめ細かい指導が必要であることや、実験施設の整備が不十分である実態を報告しました。また、WACCIの学生は、品種育成のためのシステムの構築から先端技術による分析まで、習得しなければならないことが多く、時間をかけた地道な協力が重要であることを説明しました。

第83回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、10月9日（火）、環境総合館レクチャーホールにおいて、第83回防災アカデミーを開催しました。

今回は、独立行政法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター水災害研究グループ長である田中茂信減災連携研究センター客員教授が、「近年の水災害と気候

変化？」と題し講演を行い、109名の参加者がありました。

講演ではまず、米国のハリケーンやタイの洪水等、近年の世界の水災害事例について説明がありました。

続いて、国内の降雨量等の約100年前からのデータに基づき、近年の気候変化と降雨パターンの中に明確な関係は見出せないこと、一方で今後も突発的な集中豪雨には警戒が必要との説明がありました。

また、水災害による資産被害の増大を指摘し、「ともかく避難」といった最近のソフト対策偏重に対して、資産被害を抑えるハード対策もなお重要であると説明しました。

参加者との質疑応答では、気候変動と水災害の因果関係について議論が行われました。



写真やデータを使い説明する田中客員教授